

7月の米雇用統計発表：利上げに近づく

ポイント1 堅調な雇用の拡大

8月7日に発表された7月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比21.5万人増と、概ね市場の事前予想通りの増加となりました（図1参照）。また、5、6月の同雇用者数は上方修正されました（5月：+25.4万人→+26.0万人、6月：+22.3万人→+23.1万人）。失業率は5.3%と6月から横ばいで、2008年4月以来の最低水準を維持しました。

ポイント2 加速が見えない賃金上昇率

時間当たり賃金は前月比+0.2%、前年同月比+2.1%と、6月の上昇率（0.0%、+2.0%）を上回りました。しかし、2013年以降、時間当たり賃金の前年同月比上昇率の基調は+2%程度に留まっています（図2参照）。賃金面から見ると、米国のインフレ率が大きく加速する可能性は依然小さいと考えられます。

ポイント3 高まる9月利上げの公算

非農業部門雇用者数が、労働需給のひっ迫化と緩和化の分れ目と考えられる月間20万人増を、3か月連続で上回ったことで、FRB（米連邦準備制度理事会）が、9月に利上げに踏み切る可能性は高まったと見られます。それを反映して、米国の2年国債の利回りは、7日に上昇しました。しかし、インフレ圧力が弱く、景気の先行きへの懸念もあるため、継続的に利上げが行われる可能性は低いと考えられます。こうしたことから、7日に10年国債利回りは低下し、米ドルはユーロ、円に対して若干下落しました（図3参照）。

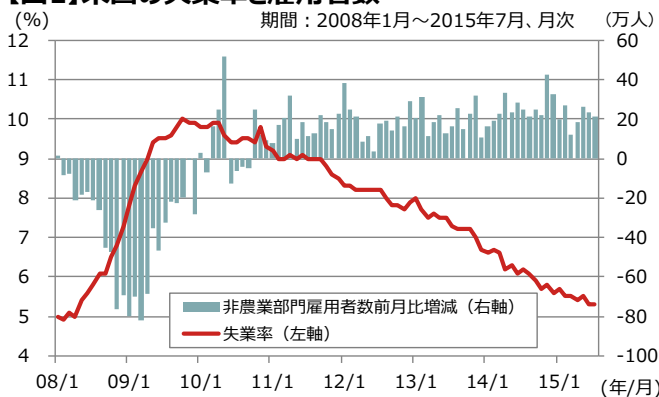
今後の債券・為替市場では、9月の利上げの公算と共に、その後の追加利上げの時期や幅に関する見方が注目されるものと思われます。

重要イベント

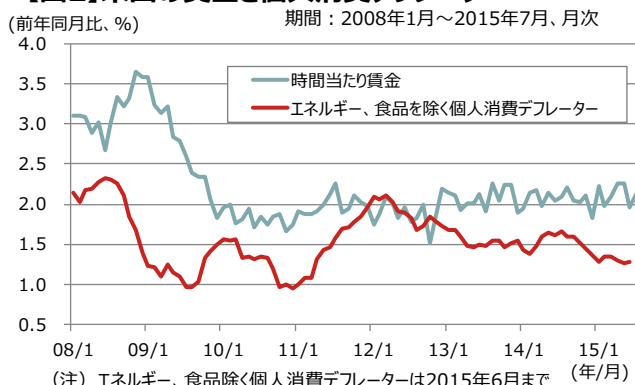
2015年9月4日 米雇用統計（8月）
2015年9月17日 金融政策発表

重要イベントは現地時間で記載しています。

【図1】米国の失業率と雇用者数



【図2】米国の賃金と個人消費デフレーター



【図3】米債利回りと円・米ドル為替レート

